

東日本大震災救援募金会計 総額 875,290,162 円

国内 619,736,216 円 海外 255,553,946 円 2013 年 10 月 31 日現在

東日本大震災緊急救援募金・東日本大震災救援募金教区別集計表 (単位：円)
【2011 年 3 月 15 日～2013 年 月 10 月 31 日】

教区	件数合計	金額合計
北海	114	4,748,370
奥羽	129	4,947,255
東北	64	2,717,133
関東	815	51,098,147
東京	1552	185,231,364
東京教区	14	4,832,956
東京・東	260	26,175,514
東京・西南	421	74,660,392
東京・南	159	27,454,422
東京・北	276	22,770,144
東京・千葉	422	29,337,936
西東京	671	69,777,504
神奈川	530	48,781,323
東海	492	37,961,404
中部	570	63,707,892
京都	85	9,303,357
大阪	451	33,847,476
兵庫	94	9,804,177
東中国	102	5,666,433
西中国	169	7,477,446
四国	350	17,555,068
九州	330	17,541,035
沖縄	92	2,368,120
個人・他	1,063	47,202,712
総計	7,673	619,736,216

* 1 会堂牧師館再建資金			
9 月まで			202,970,000
2013.10.9	教会堂・牧師館再建復興工事支援金 伊勢崎教会 (2013/9/26 本部会議にて決定)	35,000,000	237,970,000



【荒井 7 号】クリスマス昼食会！

今週は仮設住宅での行事が盛りだくさんで、火曜には七郷中央公園仮設、水曜は荒井 7 号公園仮設、木曜は荒井 2 号公園仮設にてクリスマス昼食会を行いました！ 3 日間、何度もエマオに来てくださっているワーカーの村野和泉さん（西東京教区和泉教会員）に協力していただき、とてもステキな雰囲気で終えることができました。ここでは、11 日（水）の荒井 7 号公園仮設でのバザーとクリスマス昼食会の報告をさせていただきます。仮設に住まれている方 3 名と、すでに仮設を出られ近隣に住まれている方 2 名が参加して下さいました。タイムスケジュールは以下の通り…

11:00 ～ミニバザー ※ 抽選会景品の余りや支援物資を 10 ～ 100 円という安い値段でお売りし、収益を仮設住宅での活動に役立てるため、バザーを行いました。11:40 ～ クリスマスツリー作り。12:40 ～ 昼食会 ※ 今回は、神奈川県溝ノ口教会の食事ボランティアの方が、から揚げなどを作ってくださいました。13:15 ～ クリスマスキャロル ※ 和泉さんのアコーディオンで歌を歌ったり、溝ノ口教会の方が民謡を披露して下さいたり、みんなでトーンチャイムを演奏したり…盛りだくさんでした。14:00 終了。

ミニバザーでは、互いの似合う物を見つけ合ったり、試着してみたりと、楽しめた様子でした。また、毛糸や布は編み物・裁縫好きに喜ばれました！ クリスマスツリー作りでは、手先が震え、作るのが難しい方もいましたが、ほぼ全員が 2 つ完成させました。昼食会では、料理の話になり、料理上手のボランティアの話を、皆さん興味深く聞いてくださいました♪クリスマスキャロルでは、食事ボランティアのある方の民謡が素晴らしく、アンコール！ また、溝ノ口教会の方が用意して下さいたトーンチャイムを、教会の方が演奏するのではなく、住民の方一人ひとりに持ってもらい、「きよしこのよる」と「ふるさと」を演奏し、トーンチャイムを持っていない人は、その演奏に合わせて歌いました。「ふるさとの手話を習った！」という方もおられ、手話も一緒に♪最後には、「今年はありがとうございました」「来年もよろしく願います」との挨拶で、とてもあたたかな雰囲気のクリスマス昼食会を終えました。荒井 7 号仮設での昼食会は 3 度目ですが、これから月に 1 回のペースで、さらに関わりをもてたらと思います♪（仙台スタッフ 茅野風歌）エマオブログから転載

日本基督教団

東日本大震災救援対策本部ニュース

Vol. 12

2013 年 12 月 20 日発行

169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 T/F 03-3205-6088 救援対策本部長 石橋秀雄

10 万年したら、きっと……

この夏、日独青年交流プログラムの一部に参加した。交流の中心はヴィットシュトックの町であった。わたくしがホームステイをさせていただいた家のご主人がヴィットシュトックの町を案内してくださった。この町は 30 年戦争の激戦地であったとの説明を受けた。この時、30 年位前に読んだ児童文学『三百年したら、きっと……』（ティルマン・レーリヒ著）という本を思い起こした。30 年戦争を扱った児童文学だ。ドイツの児童文学はその現実を赤裸々に描き、真実を隠さない。「兵隊が来た」ということは「悪魔が来た」と同じことだった。兵隊に全てを奪われ、少女たちまで顔を墨でぬり息を潜めて隠れる。町を襲った兵隊は少女を発見し、乱暴して捨てる。この犠牲になった少女が発見され、その少女の最後の言葉は「ベーコンを一杯食べられる時代が来るかなー」と問い、「来るよ、300 年したら、きっと……」と少女の発見者が応え、「ベーコンをお腹一杯に食べることが出来る平和な時代」を夢見ながら少女は死んで行く。これが、私が記憶している内容だ。

ヴィットシュトック市長が私達の歓迎会を持ってくださり感動した。この歓迎会でわたしは次のような話をした。

「30 年戦争の時代、犠牲となって死んでいった少女が夢見た平和とは『ベーコンをお腹一杯食べられる時代』であった。今、日本における原発事故の深刻さは水や空気と土地、この命を支えるものが放射能汚染されて、住むところを奪われている人々の悲惨だ。この悲惨は世界の問題となる。放射能汚染に苦しむ子どもから『水や空気や土地が放射能汚染から開放されて、きれいな空気と水と土地が回復する平和な時代が来るかなー』と切実に問われる時代になってしまうかもしれない」と話した。

「きれいな空気と水と土地が回復する平和な時代が来るかなー」と苦しむ子どもの問いに「来るよ 10 万年後に、きっと！」と応えるのだろうか。そのような時代が来ることがあってはならない。

私たちの対策本部会議では世界の教会に訴える国際会議を準備しているが、さらに東北教区の取り組みを教団としても支援して行きたいと願っている。

東北教区放射能問題支援対策室に指定献金を

東北教区で放射能問題支援対策室「いずみ」が開所式を行い、活動を開始しました。

現在教団では指定献金を呼びかけています。教団諸教会におきましても、現在ご献金を頂いている中から「いずみ」への指定献金とし何回か分をご献金いただきたくお願い致します。

日本基督教団

議長

救援対策本部長

石橋秀雄

募金期間

2013 年 9 月 1 日～2014 年 3 月 31 日

番 号

00110-6-639331

口座名

日本基督教団東日本大震災救援募金

※記入欄に「東北教区放射能問題支援室指定献金」と必ずご記入ください。



東北教区放射能問題対策室「いずみ」開所式訪問

長崎哲夫（総幹事）

11月1日、東北教区の放射能問題支援対策室「いずみ」の開所式で、「原発は電気も産むが、同時に未だその処分方法が決まらぬ能動的毒物とも言われる『放射能』を排出するとの講演を聞いた」と教団新報（No. 4788・89号）のコラムに書いた。

あの日の夜、自分がいた東京・渋谷の町の電気が大方消え、人通りといつもの騒ぎが消えて、夏前まで夜はほとんどゴーストタウンとなった経験をした。

愚かにも、原子力発電に任せて、都会人は当たり前のようにその電気を使い、「つけ」は「フクシマ」に押しつけていたことを漸く知った瞬間だった。

開設式の翌日、案内されて津波被災地の仙台市荒浜地区から放射能汚染地に立つ教会の間安に、福島浜通りを南下した。復興工事の大型ダンプカーが行き交う荒れた道に、あの日の被害の膨大さに改めて驚き、次第に家・公園・田畑に「除染中」の立札が林立するのを見る。

除洗土は、黒い袋に包まれて本来秋の実り豊かな農地や丘陵に直に置かれ、その上を雨よけビニール・シートで覆われていた。

行き着いたそれぞれの教会に大きく立派な保育園と幼稚園があった。本来其処は地域伝道の一大拠点。福音は先ず集まる子どもらと保護者と地域に向かってダイレクトに届けられる筈だ。

だが、放射能事故は正に「子ども」に集約され、彼らの肉体を直接触み、将来に不安をかき立てる。



■「いずみ」記念講演



■「いずみ」開所式礼拝

「去る11月12日、福島市で開かれた東京電力福島第一原発事故による放射線の影響を調べている福島県民健康管理調査検討委員会は、甲状腺がんの診断が確定した子どもは、前回8月の18人から8人増え26人なり、がんの疑いは前回25人だったが、32人であった」と翌11月13日の茨城新聞が報道している。これに対して、同検討委員長座長、県医師会常任理事である星北斗医師は終了後の記者会見で「現時点で甲状腺がんが原発事故の影響で明らかに増えている訳ではないと理解している」とも。

いま子どもたちの「飲み水」一つ挙げると、保護者の中で水道水を飲めぬ、飲ませぬ人がいれば、いつの間にか周囲に圧力が生じ、園そのものが使おうとするペットボトルを市や町は喜ばぬという。

県も町も「安全」を強調したいのだ。その先に「国」もあるか。其処には保証金を得た人と得ぬ人。原発勤務者と労務者の家族。仮設への移住を強いられた人の現実と地元の人びとの言い分。行政・企業・教育・医療・社会全部が割れる。その混乱に揺れる大人の傍らに子らはたたずむ。それ自体が彼らの通常を覆す。

事故は、先ず子どもを犠牲にしたことに大人は気づくべきであり、訪問した教会の牧師方は異口同音に、「今回の事故では子どもらが一番の犠牲者だ」と強調し、その語るに語りきれぬジレンマの狭間で牧会があることを明らかにされていた。

アメリカ合同メソジスト教会より1億1,200万の活動資金

飯島 信（救援対策本部担当幹事）



UMCOR（United Methodist Committee on Relief：アメリカ合同メソジスト教会海外災害支援部）は、この5月、日本で3・11に関わる救援活動をしている諸団体（キリスト教関係であるか否かを問わず）に対し、今後3年間にわたる活動資金として総額500万ドル（5億円）を提供する用意があるとの呼びかけを行いました。この呼びかけに対し、20を超える活動団体から総額で10億を超える応募が行われました。日本基督教団関係からは2つの団体、東北教区放射能問題支援対策室が約5千万、対策本部が8つのプロジェクトに対し総額1億の応募を行い、10月24日、発表がありました。

結果は、20を超える応募団体の中から7団体を選ばれ、その中には東北教区放射能問題支援対策室と対策本部が入っていました。支援額は、放射能問題支援対策室に約3千万、対策本部には、8つのプロジェクトの内6つに対し総額1億1,200万の額が提示されました。応募額の1億を超える予算が付いたのは、これまで別枠であったエマオ石巻の人件費を本部の支援額に組み入れたことによるものですが、いずれにしても向こう3年間の被災者支援活動のために1億を超える資金がUMCORから提供されることが決まりました。しかも、通常は、それぞれのプロジェクトの当該年度の活動報告と財務報告を待ち、それを評価してから次年度の資金の提供の有無が決定されるのが海外の資金援助のやり

方であるにもかかわらず、先日全額が教団の口座に振り込まれて来ました。私たち救援対策本部の活動を信頼してのことだと思います。これから3年間（2013/10－2016/9）にわたり、活動及び財務報告をもって、UMCORの期待に誠実に応える責務を対策本部は負うことになります。

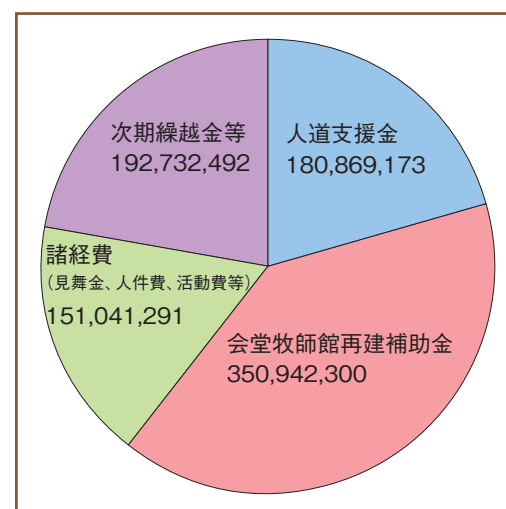
以下、決定された6つのプロジェクトと支援額を記します。（ ）内は応募額です。

1. 国際会議 400万（800万円）
2. エマオ仙台 満額（1,998万円）
3. エマオ石巻 満額（3,985万6,000円）
4. ハートフル遠野 満額（1,795万2,000円）
5. 「こひつじキャンプ in 日本及び台湾」 満額（2,471万2,000円）
6. 幼稚園・保育園保育料減免 満額（450万）

以上に加えてぜひ知っていただきたいことがあります。それは、台湾基督長老教会（PCT）は、昨年と今年で合わせて約180名ものボランティアをエマオ仙台と石巻に送って下さった他、この冬には「こひつじキャンプ」を台湾の地で行うことを申し出て下さいました。又ドイツのEMS（福音主義宣教連合会）はハートフル遠野の活動費を援助し、YMCA 同盟は「こひつじキャンプ」にスタッフを送って下さっています。このような国内外の多くの方々の祈りと励ましに支えられて、本部が展開する被災者支援活動は行われています。

ポスター円グラフの修正について

先般ポスターで掲載しました円グラフには、教団救援対策本部で決裁し支出した貸付金額を含む全額を掲載いたしましたが、貸付金は除いて記すべきとのご指摘を受けましたので、最新のデータにより、右記のように訂正いたします。



2013年10月31日現在